

子どもたちのITに関する調査研究

藤原 昌樹*¹ 斎藤 哲瑯*¹ 本郷 健*¹ 本村 猛能*¹

＜概要＞ 本研究は、小中学生を対象にメディア機器の使用と生活に関する調査を行い、子どもたちの実態を把握・検証することを目的とした。

調査の結果、学年が上がるにつれてメディア機器の所持率および使用時間が増加する傾向が見られたが、反面、屋外での遊び時間の著しい減少も見られた。また、中学生になると、友だちへの相談方法としてメールを利用するなどの、「相手の顔を見ない」コミュニケーションが増加していく傾向が見られた。

今後、ITに関するより高度な知識と技術が求められることが予想されるが、子どもたちの健全な育成という観点からどのような教育をすべきかを、学校のみならず家庭、地域が連携をとりながら考えていく必要がある。

＜キーワード＞ IT, メディア機器, 子ども

1. 研究の目的

最近、子どもたちは、携帯電話、パソコン、テレビ、テレビゲームなどのメディア機器との接触時間が増えてきており、それにより屋外での遊び時間の減少や友だち関係の希薄化などの問題点が指摘されている。こうしたことは子どもたちの自立心や社会性の育成に何らかの影響を及ぼす可能性も考えられる。

そこで、今回、小中学生を対象にITに関する調査を行い、子どもたちの実態を把握・検証するとともに今後の教育に必要な資料を収集することを目的とした。

2. 研究の方法

(1) 調査方法

調査対象校に直接アンケート調査票を送付し、学校において調査を実施してもらい、調査終了後直ちに回収し、返送してもらう方法をとった（無記名）。

(2) 調査期間

2005年7月

(3) 調査対象

調査対象校は、以前実施した調査の協力校および教育委員会などの紹介により、1都3県（東京都10校、茨城県2校、千葉県6校、神奈川県6校）から24校を選定した。また、対象学年は

小学校5年生、中学校2年生とした。

(4) 有効回答数

小学校1,094名、中学校911名の合計2,005名であった。

(5) 調査内容

調査内容については、子どもたちの生活に関する項目（睡眠時間、家庭・友だち関係、屋外での遊び時間など）と、ITに関する項目（所持しているメディア機器、携帯電話の使用状況、パソコンの使用状況、メディア機器の使用時間など）で構成されている。

3. 調査結果および考察

(1) 自分専用として持っているメディア機器

メディア機器として、「テレビ」「テレビゲーム」「ビデオデッキ」「CDプレーヤー」「DVDプレーヤー」「携帯電話」「パソコン」「デジタルカメラ」「スキャナ」「プリンター」の10種類を挙げ、それぞれについて自分専用として所持しているか尋ねたところ、小学生では「テレビゲーム」75.6%、「テレビ」28.6%、「携帯電話」27.2%の順に多く、中学生では「テレビゲーム」63.5%、「携帯電話」44.8%、「CDプレーヤー」56.9%の順に多かった。

これを性別に見てみると、「テレビゲーム」は男子84.7%に対し女子53.3%と男子が高く、

*1 FUJIWARA Masaki : 川村学園女子大学 e-mail = m.fujiwara@kgwu.ac.jp

*1 SAITOU Tetsurou : 川村学園女子大学 e-mail = t.saitou@kgwu.ac.jp

*1 HONGO Takeshi : 川村学園女子大学 e-mail = t.hongoh@kgwu.ac.jp

*1 MOTOMURA Takenori : 川村学園女子大学 e-mail = motomura@ka2.koalanet.ne.jp

表1 1日のメールの回数

			問11-1(1). 1日のメールの回数は					
			ほとんどしない	1～5回	5～10回	10回以上	20回以上	合計
問2. 学年別	小学5年	度数	112	57	25	22	10	226
		問2. 学年別の %	49.6%	25.2%	11.1%	9.7%	4.4%	100.0%
	中学2年	度数	46	86	63	113	214	522
		問2. 学年別の %	8.8%	16.5%	12.1%	21.6%	41.0%	100.0%
合計	度数		158	143	88	135	224	748
	問2. 学年別の %		21.1%	19.1%	11.8%	18.0%	29.9%	100.0%

表2 1日の携帯電話の回数

			問11-1(2).1日の携帯電話の回数は					
			ほとんどしない	1～5回	5～10回	10回以上	20回以上	合計
問2. 学年別	小学5年	度数	99	107	13	7	0	226
		問2. 学年別の %	43.8%	47.3%	5.8%	3.1%	.0%	100.0%
	中学2年	度数	360	138	11	6	8	523
		問2. 学年別の %	68.8%	26.4%	2.1%	1.1%	1.5%	100.0%
合計	度数		459	245	24	13	8	749
	問2. 学年別の %		61.3%	32.7%	3.2%	1.7%	1.1%	100.0%

「携帯電話」は女子 56.0%に対し男子 34.5%と女子の所持率が高いという結果であった。

(2) 携帯電話の使用状況

携帯電話の使用状況を、1日のメールの回数と1日の通話の回数とで検討した。1日のメールの回数については、小学生では「ほとんどしない」49.6%、「1～5回」25.2%であったのに対し、中学生では「20回以上」41.0%、「10回以上」21.6%と著しく使用頻度が高くなっている。また1日の通話の回数については、「ほとんどしない」と「1～5回」を合わせると、小学生が91.1%、中学生も95.2%という結果であった。このことから、小学生は携帯電話を持っではいるが、メール、通話ともあまり使用しておらず、中学生は通話はほとんどしないもののメールの頻度は非常に高いという結果が得られた。なお、携帯電話を持つようになった理由として、中学生では「友だちとメールをしたいから」70.5%が最も高く、メールをすること自体を目的として所持したという回答が得られた。(表1、表2参照)

(3) パソコンの活用能力

子どもたちのパソコンの活用能力については、小学生は「ゲーム」89.5%、「インターネット」73.3%、「図形(ペイント)」43.0%、中学生は「インターネット」90.4%、「ゲーム」88.7%、「図形(ペイント)」58.6%の順に多く、いずれも遊

び感覚でパソコンを活用しているという結果であった。また、インターネットの使用状況は、小学生は「天気予報を調べる」56.0%、「スポーツ結果を調べる」26.6%、「ニュースを見る」25.7%、中学生は「天気予報を調べる」40.3%、「地図・路線などを調べる」38.9%、「ニュースを見る」34.5%の順に多く、いずれも自分たちの身近な出来事に関するインターネットの活用が多いことがわかった。

4. まとめ

以上のような調査結果および考察から、学年が上がるにつれてメディア機器の所持率および使用時間が増加する傾向が見られた。しかしその反面、屋外での遊び時間の著しい減少も見られた。また、中学生では友だちへの相談方法としてメールを利用する頻度が高くなっているが、学年が上がるにつれてますますその傾向が強くなることが予想される。このような「相手の顔を見ない」コミュニケーションが、子どもたちの人間関係や社会性の育成にどのような影響を及ぼすかを今後の研究課題として探っていきたい。

発表では、資料を補足して詳細な報告を行う。